

第 65 回 道小旭川大会について 玉井 一行 指名理事

道小旭川大会は本年 9 月 9 日(金)に、会同参加者が 107 名、オンライン参加者が 433 名、計 540 名の参加によるハイブリッド開催として無事開催することができた。紺野会長をはじめ、道小役員と各地区幹事の皆様、会員の皆様には旭川大会開催にあたり、多くのご理解とご協力をいただいたことに感謝申し上げます

2 年前の 10 月 5 日、札幌で行われた道小大会運営研修会議へ出席して石狩・千歳大会からバトンを受け取ってからの 2 年間は、道小をはじめ関係機関・業者の皆様方の絶大なる協力をいただきながら、旭川市小学校長会の最優先業務として大会の準備を進め、大会運営を行うことができた。9 月 29 日に、次期開催地である渡島・北斗大会へと引継ぎを行い、大きな荷物を下ろすことができ、うれしさと少し寂しさもあるこの頃である。引継ぎ内容については、先日の会議の中で詳しく報告させていただいたので、本日は、大会アンケートの中から何点か抜粋して紹介させていただく。

- ・午前中の全体会では、今後の方向性を確認するとともに、大字会長から校長として押さえておかなければならない事項や心構えを学ばせていただいた。午後は、ICT の活用についての現状と課題、実践例を発表していただくとともに、他の地区の校長先生と取組について協議することができ、大変有意義であった。運営に携わってくださった方々に感謝申し上げます。
- ・初めてのハイブリッドによる大会運営、大変お疲れ様でした。オンラインのよさもあるが、一堂に会して協議内容以外の様々な課題についても語り合える場がほしい。自分のように校長経験が浅い参加者こそ、そのような場を望んでいるのではないだろうか。
- ・オンラインで十分協議が深まった。会同でもう少し深めたかった。情報交換したいこともあった。
- ・しっかりと学ぶことができた大会であった。ブレイクアウトルームでは、まだまだ話したい思いがあったが、あっという間に終了時間となった。
- ・コロナ禍で校長となり、まだ会同の研究会に参加したことがなく残念な思いがあった。しかし、今回のブレイクアウトルームを活用した話し合いは、それを補うにことに十分であったと思っている。充実した時間を過ごすことができ、実行委員会の皆様に感謝している。
- ・会同がベストではあるが、今やれることで精一杯対応した今大会はとても意義あるものであった。各学校では一人の校長ではあるが、仲間の存在の大きさを感じることができた。

この場で伝えられる内容は以上となるが、改めて道小大会が、校長の職能向上として貴重な機会であること、もっと話し合いたい、深め合いたいと願う仲間の大きな存在があることを感じた。このような大会が今後も継続されることを願って、私からの報告に代えさせていただきます。